

## 2012年度 事業報告

### 概況

現場を基点に技術革新と社会変革を俯瞰しつつ新たな変革の原動力を生み出すため、自由な論議の中で切磋琢磨できる場を広く提供していくことを基本方針として取り組んだ。定期的な活動である学術総会、春季討論集会を開催した。学会誌『技術革新と社会変革』第5巻第1号を発行した。会員が議論を深めることを目指して、学会ホームページ上に会員の自由投稿欄「論議の輪」を設けてある。また研究会活動として、1つの研究会が研鑽を重ねた。以上の如く実践的で具体的な活動を展開した。

### I. 特定非営利活動に係る事業報告

#### 1. 学術総会の開催

第6回学術総会を以下のように開催した。

日時：2012年9月28日(水)10:20～18:30

会場：日本教育会館

参加者：42名

内容：①奨励賞伝達式：

以下の受賞者に対して本人出席のもと、奨励賞を伝達した。

・活動奨励：愛媛県立新居浜南高等学校ユネスコ部

(篠原佑輝氏、仙波朱梨氏、渡部由真氏、河野みなみ氏)

今井健太氏、吉原有里氏

・教育奨励：河野義知氏、溝口忠一氏

②奨励賞記念講演：3件 講演者 愛媛県立新居浜南高等学校 ユネスコ部

篠原佑輝氏

河野義知氏

溝口忠一氏 (企画テーマの部で講演\*)

③ 一般発表：3件

④企画テーマ「日本企業のアジア展開を左右する各国の構造的な変化」：4件

#### 2. 春季討論集会の開催

春季討論集会(2013)を以下のように化学生物総合管理学会と共同で開催した。

日時：2013年3月1日(金) 9:30～19:00

会場：お茶の水女子大学

参加者：139名

テーマ「分野ごとのリスク認識と管理目標の現状と課題」

今年度は、分科会方式とはせずに、全テーマを全員一同に会して逐次討論する方式

とし、計 10 名のパネリストが問題提起した後、討論を進めた。パネリストと問題提起のテーマは次の通り。

北島洋樹氏（労働科学研究所）

労働安全衛生分野における短期的・長期的リスクの管理目標と課題

丹羽太貫氏（京都大学）

福島事故が明らかにしてくれた放射線リスク管理

西條政幸氏（国立感染症研究所）

インフルエンザウイルス感染症を例に、ヒト由来ウイルス感染症と動物由来ウイルス感染症のリスクとその管理を考える

広瀬明彦氏（国立医薬品食品衛生研究所）

化学物質の健康リスク管理に適用される評価結果と不確実性

永山敏廣氏（東京都健康安全研究センター）

食品中残留農薬の安全性確保

長田 敏氏（製品評価技術基盤機構）

消費生活用製品のリスクとリスク低減方法について

田部井 豊氏（農業生物資源研究所）

遺伝子組換え農作物・食品のリスク評価の考え方

山田 隼氏（製品評価技術基盤機構）

予測手法を用いたリスク評価の展望

甲斐倫明氏（大分県立看護科学大学）

リスクの正体を伝えるリスク表現とリスクの受容性について考える

向殿 政男（明治大学）

機械システムの短期的・長期的リスクと安全学

### 3. 講演会の開催

講演会の実施状況は以下の通りであった。

#### (1) 奨励賞記念講演

・実施日：2012年9月28日（第6回学術総会と合わせて実施）

・講師：溝口忠一氏（社会技術革新学会正会員）

「粉体技術の発展と期待－戦後の金属鉱山選鉱技術から新エネルギー燃料開発－」

篠原佑輝氏（愛媛県立新居浜南高等学校ユネスコ部）

「別子銅山 先人の知恵に学び、伝える」

河野義知氏（愛媛県新居浜南高等学校）

「別子銅山 近代化産業遺産を生かしたまちづくり学習～メインからマインドへ～」

### 4. 学会誌『技術革新と社会変革－現場基点－』の発行

(1) 第5巻1号（2012年7月発行）総ページ 40ページ

報文：2件 須藤繁氏他『シェールガス革命がもたらしたエネルギー勢力図の再編』  
吉原有里氏他『石油販売業の公共性と社会インフラの側面に関する考察』

報告：2件 椿善太郎氏『太陽熱利用システムにおける熱媒技術の役割』  
今井健太氏『液体の微粒化技術と社会ニーズ』

## 5. 研究会活動

### (1) 事故事例研究会

2011年6月～2013年5月の予定でⅡ期の活動を展開し、2012年度は2件の事故事例研究を行った。

## 6. 知見の集大成、体系化に関する事業

今年度中の活動実績はなかった。

## 7. 教育・普及・啓発に関する事業

「知の市場」の講座運営に協力した。

(1) 「知の市場」の紹介をホームページやニュースレターで行った。

(2) 以下の講座について学会は連携機関になり、関係する会員が講師として協力した。

科目 No.	科目名	副題	開講場所	開講時期
CT712	国際企業特論 1	事業のグローバル化と石油化学産業における基本技術	お茶の水女子大学	前期
YB531	国際石油論	日本とサウジアラビアの戦略的互惠関係の意義と発展のための条件を考える	狭山市産業労働センター	前期
ET515	社会技術革新事例研究 1	リチウムイオン2次電池の開発の歴史に見る技術革新と経営革新の成否の要因	TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター	前期
ET471	産業安全論	競争力を生み出す安全な産業と社会環境の構築を先導する経営者の育成	日本リファイン	後期

## 8. 講習およびセミナーの開催

今年度の活動実績はなかった。

## 9. その他

(1) 自由投稿欄「論議の輪」の活用

2011年3月にホームページの投稿欄を「論議の輪」としており、個人の意見やテクニカルレポートなどの紹介に活用されることが期待される。2012年度は投稿件数が1件であった。投稿者とタイトルは以下のとおり。

有志

「日本の国際競争力を阻害する化学物質規制法の乱立と所管省庁の分立を是正する国際整合性の実現」

## (2) 奨励賞制度

選考の対象として、学会誌投稿、技術革新と社会変革に資する活動や、それらに係る教育の発展に資する活動として、2012年6月の第19回理事会で奨励賞候補者を審議した。

最終的に以下の1組織及び4名に決定した。

- ・愛媛県立新居浜南高等学校ユネスコ部  
(篠原佑輝氏、仙波朱梨氏、渡部由真氏、河野みなみ氏)
- ・今井健太氏
- ・吉原有里氏
- ・河野義知氏
- ・溝口忠一氏

奨励賞伝達式を2012年9月28日の学術総会で行った。

## II. 管理・運営に関する報告

### 1. 会員状況

2012年度の会員数の増減は下表のとおり。

	2012年			2013年	
	4月1日	変更	入会	退会	4月1日
正会員	32				32
学生会員	2				2
賛助会員	2				2

賛助会員名簿 2013年4月1日現在 (入会順、敬称略)

日本化学工業株式会社

JSR 株式会社

### 2. 通常総会 (第7回)

開催日時：2012年6月22日(金)

会場：お茶の水女子大学

- 主要議案
- ・2011 年度事業報告、決算報告承認
  - ・2012 年度事業計画、予算承認
  - ・社会技術革新学会奨励賞（2012 年）受賞候補者の紹介受賞候補者の紹介

### 3. 理事会

第 19 回から第 21 回まで 3 回開催された。

#### (1) 第 19 回 2012 年 6 月 5 日(火)

主要議案・2011 年度活動及び決算の報告

- ・監査報告
- ・奨励賞受賞者選考の件
- ・通常総会開催と議案決定の件

#### (2) 第 20 回 2012 年 10 月 12 日 (金)

主要議案・第 6 回学術総会報告

- ・中間期活動報告及び中間決算報告
- ・春季討論集会計画
- ・来年度事業及び事務局の在り方に関する自由討論

#### (3) 第 21 回 2013 年 3 月 8 日 (金)

主要議案・2013 年度活動計画と予算審議

- ・春季討論会実施報告
- ・2012 年度活動報告および決算見通し報告
- ・役員改選に関する件
- ・学会誌発行に関する進捗状況報告
- ・奨励賞対象者推薦に関する件

### 4. 企画運営委員会

3 回開催し、学会の運営に関して具体的な施策を企画、立案するとともに業務の推進、調整を行った。

理事会と同時開催の形で開催した。

2012 年 6 月 5 日 (火)

2012 年 10 月 12 日 (金)

2013 年 3 月 8 日 (金)

### 5. 編集委員会

E メール臨時編集委員会を活用しながら適宜開催し、学会誌の編集方針や内容の検討を行った。学会誌『技術革新と社会変革』第 5 巻 1 号を 2012 年 7 月に発行した。また、編集委員をはじめ多くの会員に投稿論文の査読をお願いした。

### 6. 広報活動

#### (1) ホームページ

学会の PR ツールとして、ホームページを開設しており、適宜更新作業を行った。

#### (2) ニュースレター (会員宛て連絡ツール)

No.70～No.82 まで 13 回配信した。(2011 年度は 15 回)

#### 7. 運営資金状況

当学会は、年度内実収入を会計処理基準にしている。活動内容を充実させること、大学研究室への過度な依存を解消していくことを念頭に置きながら支出管理を行った。その結果、2012年度は収入 635,920 円に対して 641,328 円の支出となり、当期としては 5,408 円の支出超過となった。

以上

※その他の事業（収益事業）については、実績はなかった。